

博物館に初もうで

2024年1月2日(火)～1月28日(日)

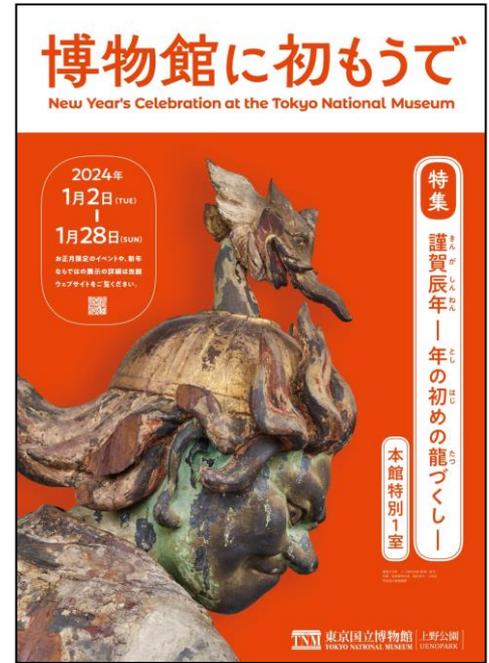
東京国立博物館は、2024年も1月2日(火)より開館し、恒例の正月企画「博物館に初もうで」を開催します。本企画は2024年で21年目を迎え、毎年お正月にご来館いただいている方もいらっしゃるようです。

干支をテーマにした特集や、長谷川等伯筆 国宝「松林図屏風」(1月2日<火>～1月14日<日> 本館2室にて展示)をはじめ、本館・東洋館の各展示室で、新年の訪れを祝して吉祥作品や名品の数々をご覧ください。

また、新春気分を感じられるいけばなの展示や、1月2日・3日には和太鼓、獅子舞など、新春限定の企画も開催します。

新たな年のスタートは、ぜひ当館でお迎えください。

【図1】博物館に初もうで メインビジュアル→



特集

博物館に初もうで 謹賀辰年一年の初めの龍づくし

2024年1月2日(火)～1月28日(日) 本館 特別1室

令和6年(2024)は辰年。辰は十二支の5番目で、十二支に割りあてられた動物(十二支獣といいます)において、辰には龍があてられています。龍は十二支獣の中で唯一想像上の動物です。元々は古代中国人の豊かな想像力の産物ですが、その姿は東アジア全域に受け入れられました。

本特集は、4つのテーマを設けて、龍の凄みと造形の繊細さを存分にご覧いただけます。龍に命を吹き込むかのように技巧を凝らした作品や、たくましくもユーモラスな姿にかたちづくられる龍の造形をお楽しみください。

【図2】重要文化財 龍濤螺鈿稜花盆

中国 元時代・14世紀 東京国立博物館蔵

螺鈿によって、5本の爪をもつ龍が体を大胆にうねらせている姿が表されています。龍の鱗や、躍動する波がしらを見ると、貝を緻密に加工する高度な技術が用いられていることがわかります。





(部分)

【図3】重要文化財 ^{じゅう に しんしょうりゅうぞう しんしん} 十二神将立像(辰神)

京都・浄瑠璃寺伝来 鎌倉時代・13世紀

十二神将は、薬師如来が従える12人の武装した守護神、いわばガードマン集団です。頭の上で龍がにらみをきかせています。



(部分)

【図4】重要文化財 ^{ごりゅうずかん} 五龍図巻

伝陳容筆 中国 南宋時代・13世紀

黒雲のなかに、5匹の龍がからみつきながら姿を現し、また雲気(うんき)のなかに隠れていく様子が描かれています。



【図5】^{ごさいりゅうとうもんちょうほうごうす} 五彩龍濤文長方合子

中国・景德鎮窯「大明万曆年製」銘
明時代・万曆年間(1573~1620) 広田松繁氏寄贈

蓋表の各面には、皇帝を象徴する五爪の龍のほか、岩や雲、波、^{かきもん}花卉文、唐草文などがびっしりと描かれています。



【図6】^{じざいりゅうおきもの} 自在龍置物

里見重義作 明治時代・20世紀

銀製の龍で、胴、脚、爪、口を動かすことができます。箱書に「自在龍」とあり、これによってこの種の作品を「自在置物」と称するようになりました。



【図7】

^{りゅうとう きりゅうぞう} 龍燈鬼立像(模造)

森川杜園作 明治時代・19世紀
原品: 奈良・興福寺蔵

右手で上半身に巻きついた龍の尻尾をつかみ、頭に乘せた燈籠をにらんでいます。興福寺の国宝の像の1/2模造です。



【図8】

^{かいしよし じじく りょうひほうぶ} 楷書四字軸「龍飛鳳舞」

康熙帝筆 中国 清時代・康熙
25年(1686) 高島菊次郎氏寄贈

清朝第4代皇帝の康熙帝の書。「龍飛鳳舞」は、中国では雄大で立派な様子を形容する言葉として用いられます。

新春

吉祥作品介绍

新年の訪れを祝して選んだ作品を展示します。

【主な展示作品】

※掲載作品はいずれも東京国立博物館蔵



【図 9】



【図 10】



【図 11】



【図 12】



【図 13】

【図 9】 うちかけ べにりん ず じしょうちくばいつるかめ もよう
打掛 紅綸子地松竹梅鶴亀模様

江戸～明治時代・19世紀 古屋圭司氏・谷口八季氏・古屋英司氏寄贈 2024年1月2日(火)～3月3日(日) 本館10室

綸子地に、縫い締め紋りや鹿の子紋りで模様を白く染め抜いて紅地に染め、金糸や絹糸で松竹梅や鶴亀などの吉祥模様を表した振袖の打掛です。

【図 10】 いろえたけ ずとくり
色絵竹図徳利

京焼・御菩薩池 江戸時代・17～18世紀 2024年1月2日(火)～6月2日(日) 本館13室

精緻な轆轤のわざによるすらりと伸びた頸部が印象的です。京焼のなかでも、卵色の素地に緑と青、金彩の三色で彩った一群は「古清水(こきよみず)」と呼ばれます。

【図 11】 **重要文化財** いろえげつばい ずちやつぼ
色絵月梅図茶壺

仁清、「仁清」印 江戸時代・17世紀 2024年1月2日(火)～3月10日(日) 本館13室

満開の花を付けた梅の木と月が、赤や緑、金や銀などで描かれています。全体に配置された金色の雲が、梅や銀色の月の姿を見え隠れさせています。

【図 12】 ばいか ず
梅花図

彭城百川筆 江戸時代・18世紀 2024年1月2日(火)～2月18日(日) 本館8室

下が透けるような荒い絹に、白梅が伸びあがり咲く様子が描かれています。作者の百川は名古屋に生まれ、舶載の中国画や画譜を学びながら絵を描き、俳諧もよくした日本文人画の先駆者の一人です。

【図 13】 **国宝** しょうりん ずびょうぶ
松林図屏風

長谷川等伯筆 安土桃山時代・16世紀 2024年1月2日(火)～14日(日) 本館2室(国宝室)

松林という日本の伝統的なモチーフを、中国絵画から学んだ水墨表現によって描き出し、日本の風土の豊かな形象をみごとに表しています。

新春イベント情報

■催し物 ※各 30 分程度

2024 年 1 月 2 日 (火)

11:00/13:15 和太鼓 湯島天神白梅太鼓 本館前

11:45/14:00 獅子舞 葛西囃子中村社中 本館前

2024 年 1 月 3 日 (水)

11:00/13:15 和太鼓 湯島天神白梅太鼓 本館前

11:45/14:00 獅子舞 葛西囃子中村社中 本館前

12:30/14:45 クラリネット・コンサート ジュリアンズ 平成館ラウンジ



【図 14】過去の和太鼓イベントの様子

■いけばな 2024 年 1 月 2 日 (火)～14 日 (日)

正門、本館玄関、本館エントランス

真生流 山根由美氏

■TNM & TOPPAN ミュージアムシアターよりプレゼント 2024 年 1 月 2 日 (火)・3 日 (水)

VR 作品「江戸城の天守」を鑑賞された方に、次回以降お使いいただける鑑賞チケット引換券（有効期限：2024 年 1 月 4 日〈木〉～6 月 30 日〈日〉）をプレゼントします。※鑑賞には別途料金および当日の予約が必要です。

■ミュージアムショップよりプレゼント 2024 年 1 月 2 日 (火)・3 日 (水)

当館の全ミュージアムショップで合計 3,000 円（税込）以上お買い上げのお客様に、ミュージアムショップのグッズをプレゼントします（両日ともなくなり次第終了。当館の全ミュージアムショップでのお買い物が対象、引き渡しは本館ミュージアムショップでのみ対応）。

■美術図書バーゲンセール 2024 年 1 月 2 日 (火)・3 日 (水)

本館ミュージアムショップのみ対象です。

■ホテルオークラレストラン ゆりの木で割引 2024 年 1 月 2 日 (火)・3 日 (水)

ゆりの木で 5,000 円（税込）以上ご利用のお客様は、お会計から 10%割引します。

■寛永寺根本中堂特別参拝 2024 年 1 月 2 日 (火)・3 日 (水) 10:00～15:00

根本中堂、四天王像（台東区登録文化財）などを公開します。

2024 年 1 月 2 日、本館 4 室がリニューアルオープン！

日本文化を代表する「茶の湯」をもっと身近で親しいもの感じていただくために、本館 4 室「茶の美術」をリニューアルします。展示ケースや照明、解説パネルなどを一新しました。新しい展示のテーマは「一期一会」。これは、日本人が茶席において一番大事にしてきた精神でもあります。

リニューアル最初の展示は、特集「茶碗 茶の湯を語るうつわ」（2024 年 1 月 2 日〈火〉～3 月 10 日〈日〉）です。本阿弥光悦（1558～1637）が生きた 16 世紀後半から 17 世紀初頭の茶の湯の動向に注目し、中国、朝鮮、東南アジア、そして光悦の創作の原点ともいえるべき楽茶碗をはじめとする日本の茶碗をまとめて紹介します。

本特集に関連する講演会を開催予定です。詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。



【図 15】

魚屋茶碗 銘 さわらび
朝鮮 朝鮮時代・16～17 世紀
広田松繁氏寄贈

2024 年 1 月 2 日 (火)～3 月
10 日 (日) 本館 4 室にて展示

その他、2024年1月開始の特集・特別展

*詳細は、当館ウェブサイト>プレス向け情報>プレスリリースのページをご覧ください。

特集「生誕 180 年記念 ^{ごしょうせき} 呉昌碩 ^{きんせき} の世界—金石の交わり—」

2024年1月2日(火)～3月17日(日) 東洋館 8室

特別展「^{ほんあみこうえつ} 本阿弥光悦の^{だい}大宇宙」

2024年1月16日(火)～3月10日(日) 平成館 特別展示室

建立 900 年 特別展「^{ちゅうそんじこんじきどう} 中尊寺金色堂」

2024年1月23日(火)～4月14日(日) 本館 特別5室

特集 親と子のギャラリー「^{ちゅうそんじ} 中尊寺のかざり」 *本特集のプレスリリースはございません

2024年1月23日(火)～3月3日(日) 本館 特別2室

親と子のギャラリーは、美術作品や制作技法への興味や関心を促すことを目的に、子どもから大人までを対象とした教育普及展示です。本特集では特別展「中尊寺金色堂」と連携し、「中尊寺のかざり」をテーマに行います。中尊寺金色堂の堂内荘厳(しょうごん)や仏具のあり方を紹介するとともに、漆工(螺鈿)と金工分野を取り上げて、その制作技法に注目して展示します。専門家の制作した模造や工程見本に加え、映像や触察ツールなどを用いることで多くの方々に分かりやすく展示内容を伝えます。

【来館案内】

開館時間：9時30分～17時 **毎週金・土曜日は～19時**

※入館は閉館の30分前まで

※特別展の開館時間は、各特別展ウェブサイト等にてご確認ください

休館日：月曜日、2024年1月9日(火) ※2024年1月8日(月・祝)は開館

観覧料：一般 1,000円、大学生 500円

※高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料。入館の際に年齢のわかるものをご提示ください。

※障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

※特別展、有料イベント等は別途料金が必要です。

※会期・開館日・開館時間・展示作品・展示期間・入館方法等については、今後の諸事情により変更する場合がありますので、当館ウェブサイトでご確認ください。

交通：JR 上野駅公園口、鶯谷駅南口から徒歩10分 東京メトロ上野駅・根津駅、京成電鉄京成上野駅から徒歩15分

《お問合せ》

本リリースの内容、またはご取材に関するお問合せ：東京国立博物館 広報室（担当：小島）

TEL: 03-3822-1111(代) FAX: 03-3822-2081 E-mail: pr_tnm@nich.go.jp